

西東京市立保谷中学校
学　校　便　り　5　号
令和８年10月８日（木）

校長

夏休みに目標を達成できた人もいれば、思うように過ごせなかったと感じている人もいるでしょう。しかし、大切なのは、今日から何を始めるかです。新しい学期のスタートラインは、全員の前にあります。

２学期には、皆さんが活躍する行事がたくさんあります。合唱コンクール、修学旅行、職場体験、川越校外学習そして、のびる学級のマラソン大会等です。勉強や部活動にも、さらに力を入れていく学期になります。

今日は、こうした２学期の様々な経験を、本当の成長につなげるために、皆さんに覚えてほしい言葉があります。それは、「経験を、次に使える力へ翻訳する」という言葉です。「翻訳する」といっても、日本語を英語に訳すという意味ではありません。ある場面で頑張ったことを振り返り、そこで身に付けた力を、別の場面でも使える形にするということです。様々な場面で使える力を「汎用スキル」といいます。少し難しく聞こえますが、簡単に言えば、「場面が変わっても生かせる力」のことです。

例えば、合唱コンクールで身に付けるのは、歌う技術だけではありません。仲間の声をよく聴く力、違う意見をまとめる力、上手くいかない時に工夫する力、そして、１つの目標に向かって協力し、努力を続ける力が育ちます。これらの力は、仲間と新しい課題に向き合う時にも発揮されます。

修学旅行では、予定通りに進まない時、班で情報を確かめ、相談して次の行動を決めます。そこで身に付けた「状況を見て立て直す力」は学習や日常生活で、何を優先して行動するかを考える時にも生かせます。

職場体験では、仕事の指示が分からない時、曖昧なまま進めず、自分から質問して確かめます。この「意図を確かめ、自分から動く力」は、新し

い役割を任された時、自分から一歩を踏み出す支えになります。

ただし、行事に参加しただけで、こうした力が自動的に身に付つくわけではありません。大切なのが「言語化」、つまり、自分の経験を言葉にすることです。「自分は何を工夫したのか」「うまくいかなかった時、どう乗り越えたのか」「その経験から、どんな力が身に付いたのか」「その力を、次はどこで使うのか」この四つを、自分の言葉で考えてみてください。

例えば、「合唱コンクールを頑張った」というだけでなく、「意見が合わないときも、相手の話を聞き、みんなが納得できる方法を考えた。そこで身に付けた話し合う力を、次は学級活動で使いたい」と言葉にするのです。そうすれば、次の場面でも使える、自分の力になります。

失敗した経験も同じです。失敗したから成長できないのではありません。「なぜうまくいかなかったのか」「次は何を変えるのか」と振り返り、言葉にすることができれば、失敗も大切な学びに変わります。

２学期の終業式の日に、「こんな行事があった」「こんな結果を残した」と言うだけでなく、「私は、この力を身に付けた」「その力を、別の場面でも使うことができた」と言える自分になっていてほしいと思います。

一つ一つの経験を、その場限りで終わらせない。自分の頑張りを言葉にして、次の自分を支える力へと変えていく。皆さんが様々な場面で力を発揮し、お互いの頑張りを認め合える２学期になることを期待しています。

生徒会役員選挙（担当:生活指導部）

９月８日(火)に体育館で立会演説会を行いました。１年生役員は信任投票、２年生役員と会長候補は定数を超える
立候補があったため、決選投票となりました。今回の選挙に向けて、立候補者と応援演説者の生徒は１学期から準備を重ねていました。また、２学期には朝の呼びかけ活動や、各クラスでの自己紹介を行い、自分の思いや考えを伝えていました。立会演説会前日が、大雨により学校が休校になり、リハーサルがしっかり行えなかった中、当日はどの会長・役員候補も、そして応援演説者も、素晴らしい演説をしてくれました。今回の生徒会役員選挙を経て、新しい生徒会役員が発足しました。壇上に立ち、全校生徒に向けて自分の意見を伝えるということは生徒たちにとってとても素晴らしい経験となったと思います。日々の学校生活の中で実力を発揮してくれることを期待します。





道徳授業地区公開講座（第１学年）

１学年では、「金賞を目指して」という合唱コンクールを基にした題材で、自分の思いや考えだけでなく、友人にもそれぞれの思いや立場があることに気づき、互いの考えを尊重しながら、よりよい集団を目指していくことをねらいとして行いました。生徒からは、「相手の気持ちを考えていきたい」「不得意だと感じている人を得意な人が支えられたら良い」「どのような形でもそれぞれが全力でできるようにしたい」といった意見が出ました。合唱コンクールに限らず、学校生活ではクラスが一つの目標に向かって取り組む場面が多くあります。その中で意見が合わなかったり、思うようにできなかったりすることもあることと思います。今回の授業を通して、目標そのものだけでなく、仲間とどのように関わりながら目標に向かっていくのかということについて、生徒も教員も考えるきっかけとなりました。

道徳授業地区公開講座（第2学年）

２年生では、「一員というプライド（心をひとつに 響けハーモニー)」という合唱コンクールを題材にした読みものを使い、合唱コンクールに向けてよりよい集団をつくるためにはどうしたらよいかを考えました。自分とは異なる考えをもつ人々が集まる集団において、互いの考えを尊重し「心をひとつに」するには話し合いが不可欠です。他人の意見を否定しない、多数決禁止、といった「話し合いのルール」を守って大切にしていきたい「価値観」をダイヤモンド・ランキングの表にしていく活動の中で、生徒は異なる価値観にふれ、自身の考えをより深めていくことができました。どの学級も、１０月から始まる合唱練習に向けて、互いの考えや思いを尊重しながら、一人一人が学級の一員としてどのようにかかわっていくことが大切なのかを考える機会となりました。

道徳授業地区公開講座（第3学年）

３年生では「私たちの合唱祭」を教材に、合唱祭を発表形式にするか、コンクール形式にするかについて考えました。話し合いでは「１つの目的、例えばコンクールでの勝利に向かって、みんなで頑張ることに意味がある」「勝ち負けがあることで、モチベーションが上がり、より良い学級づくりにつながる」という意見が出ました。一方で、「学級ごとの集団力は高まるけれど、学年全体の一体感とは何だろう」「学年合唱は勝ち負けではない」と視点を広げる意見もありました。行事を通してどのような集団を作っていきたいのかを考える中で、学校行事の意味についても改めて見つめなおしました。学校行事はただ楽しむためだけにあるのではないことを再確認し、最上級生として、学校行事を自身と集団の成長につなげるために何が大切か、考えを深める時間となりました。

道徳授業地区公開講座（のびる学級）

１年Ｉ組「決まりってなんだろう？」では、掃除のルールについての動画を見て話し合いを行い「決まりやルールはみんなのためにある」ということを学ぶことができました。１年Ｊ組、２年Ｉ・Ｊ組合同の「合唱コンを通してよい集団について考える」では、集団の中の「個」の気持ちに寄り添って自分の考えをまとめることができました。３年生Ｉ・Ｊ組は「合唱コンクールに向けて」ではグループでの話し合い活動から、それぞれの意見に耳を傾け、自分の考えをさらに深めることができました。のびる学級内でのそれぞれの実態に合わせた活動を通して、集団の中での自分のあり方や、やるべきことを考えることができたと思います。今後の学校生活や行事に生かしてほしいです。

道徳授業地区公開講座　意見交流会

今回は「よりよい学校生活、集団生活の充実」という内容項目のもと、授業を行いました。各学年、発達段階や生徒の実態に応じた題材を通して、集団の中で互いの思いや考えを尊重することや、よりよい学校生活をつくるために自分にできることについて考えました。意見交流会では、同じ問いに対しての様々な捉え方があり、その違いを共有することで、教員が想定していた生徒の姿だけでなく、生徒一人一人の考えや集団としての特徴を捉えながら授業をつくっていくことの大切さについても考える機会となりました。学校生活では、全体で協力して取り組む場面が多くあります。今回の学びを、それぞれが互いの違いや思いを認めながら、よりよい集団をつくっていくための行動につなげていってもらえたらと思います。

10月の予定

10月12日(月)　スポーツの日
13日(火)　教育実習始　専門委員会
14日(水)　職員会議
16日(金)　避難訓練
17日（金）校内研究 午前授業



19日(月)　生徒会朝礼　給食なし（お弁当）
22日(木)　合唱コンクール
26日(月)　全校朝礼　教育実習終
27日(火)　進路説明会（３）
30日(金)　三者面談始（３）
30日(金)～11月9日(月)　午前授業

